

実践事例

(郷土) 常磐中学校 1年

「常磐の宝を守る」—地域のことを知ろう—

4月～6月(25時間)

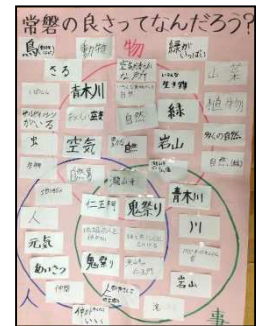
1 ねらい

常磐地区には、国の重要文化財「瀧山寺」や「仁王門」があり、日本三大東照宮とされている「瀧山東照宮」もある。さらには、県の無形文化財「鬼まつり」などがあり、誇れるものやことが存在する。そんな地域に住む生徒たちは、常磐の宝を守りたいという関心が高い。しかし、学区のことを知っているという自信をもって言える生徒は少ないのが現状である。このことから、地域交流活動を通し地域の良さや問題点を追究し、さらに良い地域にしようという気持ちを持たせたい。また、地域の事を知り地域の未来を考え行動できる生徒の育成をしていきたいと考えた。

2 実践の概要

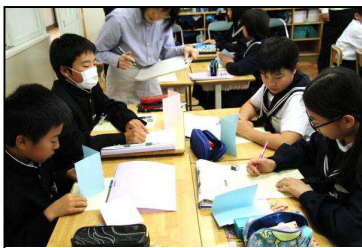
(1) 課題設定のための活動

地域の良さは人によって異なるであろう。今回は初めての追究学習ということもあり、学び方や課題解決方法を身に付けさせるため、調査内容を絞ることにした。写真1のように、人・もの・ことがすべて関わり合う、「瀧山寺」「仁王門」「鬼まつり」に焦点を絞り学習を進めていくことにした。また、次時には直接現地に行き情報収集をしながらマッピング製作をさせ、テーマを決定するための資料とした。



【写真1】常磐の良さ

(2) 調べ学習の課題決定と調査内容の精選



【写真2】討論の様子

マッピングをした用紙から、関心の高いものを1つ決めさせ、そのテーマから疑問に思ったことと、疑問に思った理由を考えさせた。さらに、それを3～4人の班で調査テーマにふさわしいものかを討論する。発表者が疑問と疑問理由を発表する。その他の生徒達は、それに対して「不思議だ」と思ったら青のカードを「知っている」と思ったら桃のカードを机に立てるよう

にさせる。班員全員が青の表示を立てたら、誰も知らないこと

であり調査する価値があると考えた。桃のカードが立ったら、発表者の疑問をその場で解決し、その結果を踏まえて、さらに疑問を深めていく。さらに、討論にならなかった班は、全体に向けて発表し、全員で発表者の疑問解決に臨んだ。簡単なテーマではなく、誰もが答えられない課題を解決していくことができれば、互いの学びも深まると感じた。また、班員の疑問を聞いて自分の興味・関心に加えて仲間の意見にも興味をもつことができた。

(3) 調べ学習

① 氏子総代の方に瀧山寺東照宮のことを聞く

瀧山東照宮の見学を含めお話を伺った。瀧山東照宮に興味をもっている生徒は、見学・講話・質問から疑問を解決することができた。また瀧山東照宮と瀧山寺の管轄者が異なることや、詳しい人や物の紹介を受け調べ活動の方法を理解することができた。

② 本やインターネットで調べる

学校の図書室で調べたが、地域に関する書物がないことが分かった。その後、氏子総代の方から教えていただいた「市民ホーム」という意見が出て、市民ホームに足を運び調べてみることにした。市民ホームには、地域に関する本がたくさん置いてあり、貸し出しをしてもらうこともできた。図書室があったことを知らない生徒も多くいて、市民ホームには、地域に関する書物があることが分かった。



【写真3】話し合いの様子

インターネットについては、詳細に迫ることが難しかった。しかし、他県の東照宮の情報を得るなど、地域の建造物と他県の建造物を比較することで疑問を解決したいという意欲が高まった。

③ 瀧山寺住職さんや宝物殿ガイドの方の講話

地域の人々の講話は説得力がある。さらに、書物よりも詳しく自分が感じている疑問を解決するための知識を与えてくれた。宝物殿では、実際に中に入らせていただき、貴重な仏像や実際の鬼面を見ることができた。見たり、聞いたり五感で感じるという調査方法が、最も疑問を解決することができた。さらに、地域の現状や地域の伝統行事「鬼まつり」の問題点などを教えていただくこともできた。生徒たちは、地域のことを知りたいという思いを強くもった。さらに、地域のために学んだことを広めていこうとする姿勢が見られた。

(4) 発表会や学習を生かした、話し合い活動

今まで学習してきた事を、A4サイズの原稿用紙にまとめさせた。そして、教材提示機を用いて、学級のテレビに映し、1人ずつ発表させた。その発表を生かして話し合いを進めていくことにした。話し合いのテーマとしては、「瀧山東照宮は日本三大東照宮なの?」「仁王門の逆さ垂木の伝説をつくろう」「鬼まつりでは、鬼面をかぶる役になりたいか?なりたくないか?」というテーマで学習した内容を生かして進めた。しかし、話し合いの中で感じたのは、自分自身の意見がたくさん出ており、「地域のために」や「伝統を引き継ぐために」という気持ちが備わっていないと感じた。そこで、次のテーマでは、地域の未来に焦点を当て話し合いをさせることとした。

「瀧山寺は100年後も健在する?」「10年後の鬼まつりは?」などをテーマにした。問題点や現状を考えれば、「なくなる」という意見がたくさん出た。その時「なくなってもいいのか?」「どうせなくなるなら、やめてしまえば」などのゆさぶり発問に対して、「やはりなくしたくない」という思いをもつことができた。その後、自分たちにできることを考えさせ、地域のために行動していこうと思えた。

3 実践を振り返って

学習したこと以外にも、子ども達は学区の良さがたくさんあることを知っている。焦点を絞り学習を進めてきたが、今後はさらに調べ学習の範囲を広げ、視野を広げた常磐の良さを追究しなければならないと反省している。学区のことを知るにより、意欲的に調べ学習に取り組むようになり、地域に関わって生きるという思いがもてた。また、知らなかった文化財について学び、それを守っていきたいという気持ちを高めることができた。今後も、郷土を愛し、地域のすばらしさを知り、地域との交流を深め生きていこうとする生徒の育成を目指し、これからの地域のことを考え行動できる力を身に付けさせたい。